

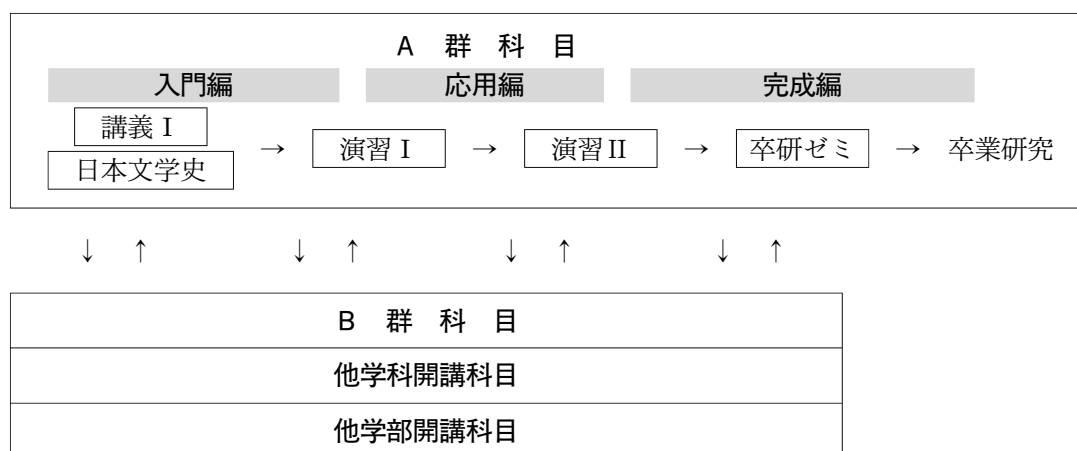
日本語・日本文学科

日本語・日本文学科のカリキュラムは、皆さんが自主的にテーマを模索、探求し、そしてそれを表現する力を身につけることを支援する目的で作られています。

【表1】 日本語・日本文学科カリキュラム

	科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
A群科目	講義Ⅰ	選択必修	選択必修			
	日本文学史	選択必修	選択必修			
	演習Ⅰ		選択必修	選択		一学年2コマまで履修可 専任教員全員で担当
	演習Ⅱ			選択必修	選択	一学年2コマまで履修可 専任教員全員で担当
	卒業研究ゼミⅠ			選択		一学年1コマ 専任教員全員で担当
	卒業研究ゼミⅡ				必修	一学年1コマ 専任教員全員で担当
	卒業研究(卒業論文)					必修
B群科目	特殊講義		選択	選択	選択	
	日本文化論	選択	選択	選択	選択	
	講義Ⅱ		選択	選択	選択	
	日本思想史		選択	選択	選択	
	日本語学概論 日本文学概論		選択	選択	選択	
	書道	書道Ⅰ・Ⅱ	書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	書道Ⅲ・Ⅳ	書道Ⅳ	
	古文読解	選択	選択			
	日本語表現法	選択				
	他学科開講科目					クラスター基礎科目 (選択必修)を含む
	他学部開講科目					

【図1】 日本語・日本文学科カリキュラムの理念

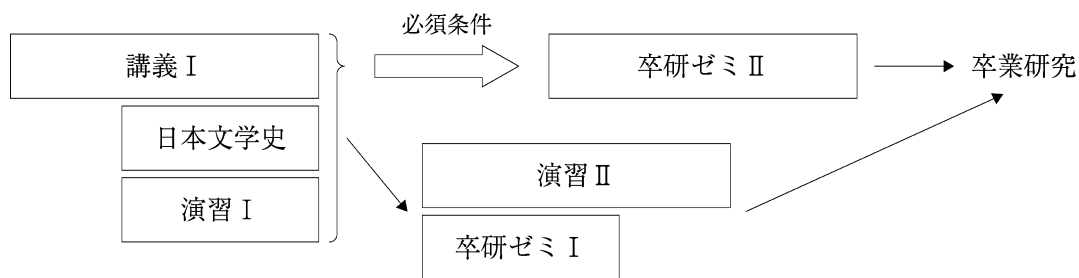


■カリキュラムの柱 — A群科目 —

表現力を育て、四年間の学問的活動を最終的に「卒業研究」に仕上げるまでの基本的なプロセスは、表1および図1の「A群科目」に示されています。

「A群科目」には「講義Ⅰ」「日本文学史」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒研ゼミ」「卒業研究」の6種類の科目が含まれます。「講義Ⅰ」「日本文学史」は、各研究領域、ジャンルのいわば入門編に当たるもので、《基礎》となる知識や方法論を学ぶ場となります。「演習Ⅰ」は、具体的な課題に取り組みながら、「講義Ⅰ」で学んだ基礎を《研究》に生かしてゆくための訓練をする場となります。「演習Ⅱ」は、参加者が各自の課題を設定して自力で調査研究し、その成果を他の参加者に対して《発表》する場、つまり、問題意識や方法論の訓練と同時に構想力や表現力の鍛錬を行う場ともなるはずです。研究内容も「演習Ⅰ」よりさらに高いレベルのものが求められてきます。「卒研ゼミ」は、各自が「卒業研究」に直結するテーマを、これまでに培った知識と方法論とを傾けて可能な限り掘り下げてゆきながら、同時にそれを他の人々に対して十分な説得力を持つ形に（要するに「論文」のスタイルに）まとめ上げるための、より高度な《技術》を磨く場になるでしょう。こうして「卒研ゼミ」をクリアした暁には（理想的にゆけば）、「卒業研究」がほぼ完成しているということになるわけです。

【図2】 A群科目の流れ



ではどのように「卒業研究」に結びつく関心領域を見つけてゆけばよいのでしょうか。自分自身の関心領域については、できれば1・2年次のうちにおおよそのところを絞り込んでおくのが望ましいでしょう。1・2年次中に「講義Ⅰ」6単位、「日本文学史」4単位を、2年次に「演習Ⅰ」4単位をそれぞれ必修として課しているのは、その絞り込みの目安にしてほしいという意図からです。1・2年次に少なくとも3種類（日本語学・古典文学・近現代文学）の「講義Ⅰ」科目を選択履修することは、自分の可能性と興味関心のありかを見極めるチャンスになるはずです（早い学年のうちなるべく多くの領域にわたる講義に触れておくことが、その後の方向選択を容易かつ余裕あるものにしてくれるでしょう）。そして2年次にはひとまず「演習Ⅰ」を一つ（または二つ）選んで、自分のその関心が本物なのかどうか、今後その研究領域で研究を進めて行けるのかどうかを確認してほしいのです（もしここで自分の選択が誤っていたことに気づいたとしても、その後の研究の方向修正は、卒業までの2年間で充分可能なはずです。もちろんなるべくはそのようなことにならないよう、慎重に慎重を重ねてベストの選択をしてほしいと思います）。そうすれば3年次には、1・2年次で絞り込んだ関心領域に合わせて「演習Ⅱ」を選び、さらに知識を深めて行くことができるようになるはずです。

なお、「講義Ⅰ」「演習Ⅰ」の単位は、上に記したように卒業のための必修の単位になっているとい

うこと以外に、「卒研ゼミ」履修のための必須条件となっているという点でもたいへん重要です。「卒研ゼミ」は3年次から受講できますが（3年次は「卒研ゼミⅠ」）、この「卒研ゼミ」を受講するためには（「卒研ゼミⅠ」「卒研ゼミⅡ」いずれの場合にも）、「講義Ⅰ」1科目（4単位）および「演習Ⅰ」1科目（4単位）をそれぞれあらかじめ単位取得しておかなくてはなりません。3年次終了時に、「講義Ⅰ」「演習Ⅰ」のどちらか一方でも単位取得していない場合には、受講資格を満たしていないわけですから、4年次必修の「卒研ゼミⅡ」が受講できないこととなります。つまりその段階で留年が確定してしまうことになるのです（図2参照）。この点は十分に注意して下さい。この条件を満たした上で、4年次には、いずれかの「卒研ゼミⅡ」に所属し、「卒業研究」をまとめることとなります。

■多様な関心を見つけるカリキュラム — B群科目・他学科開講科目 —

上記の「A群科目」のプロセスをより実り豊かにするためには、幅広い視野と関心を持つことも重要です。そのために日本語・日本文学科で用意したカリキュラムが表1および図1の「B群科目」の部分に当たります。

ここには「日本語学概論」「日本文学概論」「講義Ⅱ」「日本文化論」「特殊講義」「日本思想史」などが含まれます。「日本語学概論」「日本文学概論」は講義Ⅰや「日本文学史」の基礎を確認しつつ、その分野を俯瞰する意味をもち、「講義Ⅱ」は主に日本語・日本文学に関する分野についての、「日本文化論」はその他の関連する様々な周辺領域についての、教員本人による研究の成果やそれぞれの分野の先端知識などのホットな話題が、いわゆる「講義」形式で提供される形の授業が中心になります。俯瞰的であると同時に批評的な観点を得るために「日本思想史」も必要です。「特殊講義」は、学外から様々な分野の研究者を講師に招き、一週間に限って集中的に講義をしていただく、いわゆる集中講義の形で行われる授業です。毎年、各分野の第一線で活躍中の気鋭の講師をお迎えしますので、自分自身の知識を広めたり、学習・研究を進めるヒントを得たり、様々な点でまたと無いたいへん有意義な機会になるでしょう。

これらの多彩な科目群を利用して、他領域に横断する知識や多様な研究スタイルを身につけて下さい。自分の中に多様な選択肢があってはじめて、自由に自分のテーマをかため追究する「A群科目」のプロセスが生きてくるはずですよ。

なお、A群科目、B群科目のほかに「古典読解」「日本語表現法」という主に1年次に向けて開講されている基礎的な事項が学べる授業があります。古典文法といった古文を読むうえでの基礎知識、また日本語の文章の書き方、論述の仕方といった初歩的なことを学習しますので、大学で学ぶことに不安を感じる人は積極的にこの科目を受けましょう。

また文学部では、他学科で開講される様々な科目も、学科の垣根をこえて可能な限り自由に選択履修できる態勢を整えました。これはいわゆる「一般教養」科目とは異なり、各学科が学科としての専門教育を目的として開く講義ですから、それぞれの分野を専門とする担当教員による最先端の知見と独自の метод論を傾けた講義内容を吸収することができるのです。こうしたバラエティ豊かな他学科開講科目を通じて、多くの分野にまたがる知識や様々な問題意識を身につけて下さい。

■卒業単位構成

以上の「A群科目」「B群科目・他学科開講科目」についての説明をもとに一人一人が独自のカリキュラムを設計して下さい。それによって取得した単位数が、最終的に下の表に示した卒業要件を満たすようになっていけばよいのです。

【表2】 日本語・日本文学科 必要単位数

講義 I	6 単位以上	選択必修	A 群
日本文学史	4 単位以上	選択必修	
演習 I	4 単位以上	選択必修	
演習 II	4 単位以上	選択必修	
卒業研究ゼミ II	4 単位	必修	
卒業研究	4 単位	必修	
それ以外の学科科目	20 単位以上	選択	A 群または B 群 ※ 1
共通科目 (宗教科目)	4 単位	必修	
外国語	8 単位以上	選択必修	
クラスター基礎科目	4 単位以上	選択必修	
自由選択	62 単位以上	選択	A 群または B 群 または他学科開講科目 ※ 2
合計	124 単位以上		

※ 1 ただし、書道 I～IV を除く。

※ 2 教職に関する科目 (指定された科目のうち 8 単位まで) も含まれます。
他学部開講科目 (指定された科目のうち 12 単位まで) も加わります。

■セメスター制について

本学科の講義 I はセメスター制に基づく科目です。セメスター制では、前期と後期が同じ授業内容になりますので、前期か後期のどちらかしか受講できません (講義 I は 1 科目 2 単位です)。講義 I をできるだけ多く履修できるようにこのような講義形式になっているのです。なお講義 I につきましては、日本語学分野から 2 単位以上、古典文学分野から 2 単位以上、近現代文学分野から 2 単位以上、計 6 単位以上を 2 年次終了時まで取得しておく必要がありますので気をつけてください (詳しくは教育課程表の講義 I の備考欄を見てください)。

■クラスター制について

本学部においては、クラスター制で卒業論文を書くことが可能です。クラスター制を利用すれば他学科の教員のもとで卒業論文を書くこともできます。詳しくはクラスター制履修要項を参照してください。